

青立ちしにくい大粒大豆 「里のほほえみ」の認定品種採用

近年、県内大豆の主力品種「タチナガハ」では青立ち症状が問題となっています。青立ちは莢は成熟しているにもかかわらず茎葉は青々としている状態で、収穫時の汚粒発生や、刈り遅れによる減収、品質低下が生じます。そこで、青立ちの発生しにくい大豆品種「里のほほえみ」を新たに認定品種として採用しました。

青立ちの発生しやすさ

「タチナガハ」で青立ちが多発した平成 24 年においても、「里のほほえみ」では青立ちの発生は少なく、成熟は揃っています

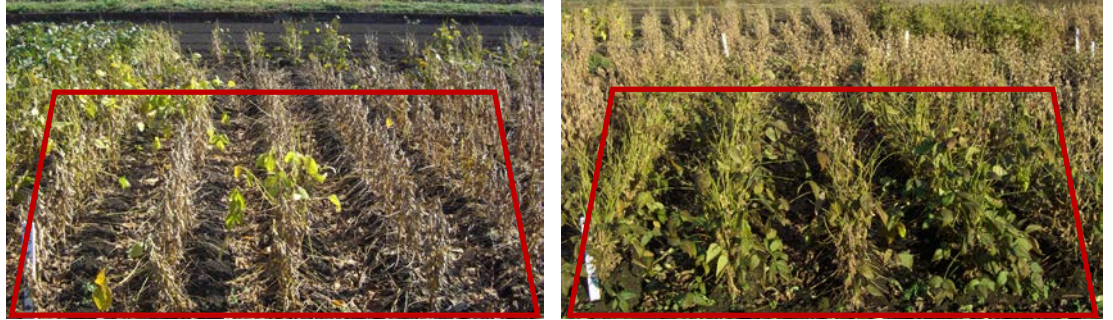


図1 成熟期の青立ち発生の様子(四角で囲った部分、左:里のほほえみ、右:タチナガハ)

(図 1)。

里のほほえみの特性

「里のほほえみ」は葉の形は円葉、花色は白色であり、長葉で花色が紫色の「タチナガハ」との区別が容易です。

莢のはじけやすさを示す裂莢性が「タチナガハ」では“中”であるのに対して、「里のほほえみ」では“難”であり、収穫時の脱粒による減収を防げます。また、倒伏にも強く、莢の位置を示す最下着莢節位が高いため機械収穫に適しています。収量は同等ですが、子実が大きく(図 2)、蛋白質含有率が高く豆腐加工適性に優れるといった特性があります(表 1)。

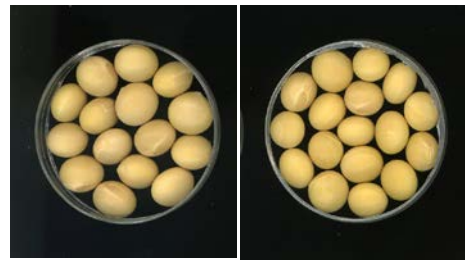


図 2 子実の比較(左:里のほほえみ、右:タチナガハ)

表 1 「里のほほえみ」の特性

品種名	開花期	成熟期	主茎長 (cm)	最下着莢 節位高 (cm)	百粒重 (g)	子実重 (kg/a)	耐倒伏 性	裂莢 性	病虫害抵抗性		
									ダイズ モザイク ウイルス	ダイズ シスト センチュウ	紫 斑 病
里のほほえみ	8.1	10.28	50.7	16	35.2	22.8	強	難	強	弱	強
タチナガハ	8.1	10.19	57.0	12	38.0	31.0	強	中	中	弱	強

数値は下記条件における試験結果による。

(1) 試験年次:平成 22 年~26 年、「里のほほえみ」のみ平成 17 年~平成 19 年、平成 24 年~平成 26 年

(2) 試験圃場:茨城県農業総合センター農業研究所(水戸市上国井町) 輪換畑(表層腐植質多湿黒ボク土)

栽培上の留意点

- 1) 「タチナガハ」同様、ダイズシストセンチュウに弱いので、発生は場での作付けや連作は避けてください。
- 2) 気象条件等によって、べと病の発生が見られますので、適宜防除を行なってください。

< 問い合わせ先: 農業研究所作物研究室 Tel 029(239)7212 >